

# NGOネットワーク

アジア、アフリカ、環太平洋の三十二カ国の非政府組織（NGO）を招き、岡山市などで開かれた国内初の国際会議「弘おかやま国際貢献NGOサミット」が二十六日、東京都内で開かれたNGOフォーラムを最後に幕を閉じた。主催者の予想を超す海外の四十四団体が参加、災害や紛争地での援助活動のあり方を討

## How

議。それぞれの地域の宗教や文化、習慣を熟知した被援助地域のNGO同士による情報交換や共同援助活動を行った「岡山宣言」を採択するなど、欧米型NGOとはひと味違うネットワーク創設が提言された。サミット開催の背景と、地域に根ざしたNGOの今後を探ってみた。  
(岡山支局・中村 肇)

サミットは「ネパールやルワンダなどの難民に対し医療援助を続けている」「アジア医師連絡協議会」(AMDA、本部・岡山市)の菅波茂代表(心)らが提唱、岡山市などの自治体から資金援助を受け、運営には県内各市民団体の協力を得た。また外務省が今年度からNGO支援として始めた「開発協力適正技術移転・

普及事業」の適用第一号として千百万円の補助を受け、開催することに対し、「これだけ多くのNGOを本当に受け入れられるのか」と事務局の内部ですら可能性を疑問視する声があった。しかし、いざワタを開けてみると、これまでつながりのなかったNGOからもうるAMD Aならではの実績に負う所が多い。だが、日本では例のない国際会議を民間の一組織が

た。黒人主導政権誕生から間もない南アフリカや、イスラム圏など日本ではなじみのないNGOも数多く参加した。「民間療法などの伝統文化を無視して援助の効果は上らない」「フィジーのツコンコ・バカマラン」などの発言は多くのNGOの共

## 国連頂点「タテ社会」に不満

まよやかお  
サミット

# ヨコの連携強める一歩

た。その象徴がサミット二日目の各国の現状報告だった。「難民キャンプの惨状がテレビに映ると欧米のNGOが大勢押しかけてくる。しかし、彼らが帰った後には何も残らない」(ウガンダのNGOクザンコレ)、

感を呼んだ。それは、「欧米系NGOの援助活動は必ずしも現地の実情を反映していない」という批判感情だ。さらに「国境なき医師団」(本部・パリ)や「ケア」(同・ブリュッセル)など大規模なNGOが国連難民高等

弁務官事務所(UNHCR)をはじめとする国連機関の活動演じているのに対し、地域に密着したアジア、アフリカのNGOには国連の資金や情報が流れにくい構造に対するいら立ちもある。「どこにヒトとモノをしい指摘もあった。



NGOサミットで「岡山宣言」を発表する菅波・AMDA代表

●緊急救援へNGOネットワーク 海外での緊急救援活動のネットワークを広げるNGO(非政府組織)フォーラム(アジア医師連絡協議会など主催)が二十六日、東京都杉並区の立正佼成会普門館で開かれた。海外二十九カ国を含む約八十人の民間活動家が参加。緊急救援と開発のための国際NGOネットワークを設立▽国連機関などの協力を推進▽国際貢献人道援助機関連絡協議会を設置――など八項目の「東京宣言」を採択した。

「岡山を拠点に」 人道主義を背景にしたNGO活動も、その半面では限られた援助資金をめぐって激しい獲得競争を演じている。国連を頂点とした垂直型編成の欧米系NGOに対し、サミットが目指す「NGO同士が対等な「水型編成」のネットワークづくり」は国際社会におけるアジア、アフリカのNGOの発言権を強めるのが狙い。その目的はようやく第一歩を踏み出した。関係者は今後、「国連機関の集まりは現実的な生みの苦しみがはこれからだといえる。

投入すれば効果があるか。現地のNGOが最もよく知っている。その声に耳を傾けよとせよ、十分な成果を上げないまま、援助資金のほとんどが他国から来たNGOの人情費に消えてしまう」という厳